

(新刊)

西洋教育事情

見本

發兌

大賣捌所

金港堂書籍株式會社  
金港堂書籍株式會社支店



女子高等師範學校 教授 文學士下田次郎先生新著

# 西洋教育事情

菊版美装本文八百三十二頁  
鮮麗なる寫眞挿畫三百餘箇  
全一冊定價金參圓

## 特別減價

明治四十年 一月三十一日迄

金貳圓五拾錢

郵税 不要

本書は下田文學士が、數年間西洋留學の間、巴里、倫敦、ライプチヒ、エーナの滞在中は勿論、獨、佛、埃、伊、露、蘭、白、英、米、芬、蘭、瑞典、諾威、丁抹、瑞西の諸國を遊歴して、學校、實地の授業、教員、學生々活、運動遊戯、圖書館、博物館を始め、音樂、演劇、繪畫、彫刻、建築、娛樂、慈善事業、家庭、社會生活、山水、名所、舊蹟等、苟も事の直接間接教育に關するものは、氏が鋭敏なる感受性と絶倫の精力とを以て、細大洩らすことなく、見聞記述するに努め、其參考となるべき文書繪畫を蒐集し、又氏自ら到る所寫眞機械を携へて、場合に應じて寫取せられたる豊富なる材料に依りて成れるものなり。從來教育に關する著書は汗牛充棟管ならずと雖、西洋教育の實際を、此の如く精細に、此の如く多方面に涉りて記述せるものなく、且其挿入せる三百の繪畫は、獨り數に於ても類に於ても、空前なるのみならず、また本文と相待て能く其實際を眼前に彷彿たらしむ。されば本書の閱讀は、教育家には業務上多大の收穫を與ふるに止らず、亦好箇精神の滋養たり、享樂たり、學生には、其眼界を廣潤にし、健全なる努力心を喚起する、無比の指導たるものなり。今や印刷半歳の功を竣へて、教育界に此書を供提するを得るは、本社の私に喜ぶ所なり、請ふ愛讀を賜はらんことを。

## 發兌元

東京市日本橋區本町三丁目一七

金港堂書籍株式會社

## 同支店

大阪市東區北久太郎町

## 序

西洋に行つて、下宿屋の二階か三階に燻ぼつて、本を讀んで居るだけなら、態々行くまでもなく、此方に取寄せても讀めることであるし、又三年の間に何程も讀めるものでもない、行くほごなら、成るべく實際を見て來ねばならぬ、殊に教育の如き活事業には、それが一番大事である。さて見た上は、大多數の見ぬ人にそれを知らずのが、洋行した者の特權たること共に、亦役目であらうこと、自分で極めて、渡歐したのは、三十二年の秋である。

留學三年の間も其積りで、エーナ、ライプチヒ、巴里、倫敦の滞在中は勿論、獨、佛、埃、伊、露、蘭、白、英、蘇、米、芬、蘭、瑞典、諾威、丁抹、瑞西の諸國を遊歴して、學校實地の授業、教員、學生々活、運動遊戯、圖書館、博物館、美術館を始め、音樂、演劇、娛樂、慈善事業、家庭、社會生活、山水、名所、舊蹟、何でも見聞するここを努め、其珍らしく、面白く、また有益であ

序

一



るご思ふた事は、小口から書き留めて置き、其参考となるべき文  
書、繪畫をあさり求め、又自らポケット入の寫眞機械を携帯して、  
到る所頼んで、或は咄嗟の間に寫し取つて置いた。本書は即ち  
其材料に依て出来たものである。

書中には日英同盟、日露戦争以前の在外日本人としての感慨を  
洩らした所もあるが、それも今は昔話となつたし、又註文として  
教育界に提出した事で、今は實行されて居るものもあるのは、甚  
だ愉快な事である。然し尙註文のまゝ残つて居る事も、少くな  
いから、それ等も成るべく早く事實ならん事を望むのである。  
若し本書に由て、廣義に於ける西洋教育の事情が多少分り、教育  
界の努力に幾分の刺戟を與ふるを得ば、著者の用意と勞力は、空  
しからぬのである。

明治二十九年十一月十三日

著者識

### 例言

- 一 本書は主として、著者が外國留學中及び歸朝後各種の教育雜誌に載せたものを、  
訂正編集せるものである。
- 一 假字及び助字の用法は、時に由りて一致せぬが、すべて元の儘にして置いた。
- 一 外國の人名と地名には假名と漢字とを併せ用ゐた。其假名の人名には、右側に  
一線を引き、地名には同じく二線を引く。
- 一 第十九篇は、本書の總括又は結論と見ても可い。
- 一 本書載する所は、豫期の全部ではなく、南歐、和蘭、蘇國、米國遊歴の所見は、纏めては、  
出て居らず、又參觀せる多數の學校、西洋の日常生活、風俗習慣に就ても、記さぬ事  
が澤山あるが、これらはまた時間があつたら、纏めて他日公にしたいと思ふ。



# 西洋教育事情目次

## 一、巴里の教育観

緒言——巴里の外観——學校——佛國の主義——佛國の人民——旅行——愛國心と名譽心——名譽の表彰——自由——演説——平等——友愛——生活の困難——裸體畫——風儀世間的學校と宗教的學校——フランスの女——乞食物貰ひ——舊教國——唯理宗衛生——區の氣風——娛樂——廣告——一——二五  
フランスの學校——ロシヤの女學生——ポーランド人——大學生——リセ——小學校——佛獨人の比較——試験——教科細目——時間割——高等師範學校——各種の學校——「通俗大學」——學校の名稱——日本學生——パンテオン會——をばり……二五——四〇

## 二、英國の教育観

緒言——倫敦の廣表——倫敦の人口——倫敦の住民——倫敦の成長——倫敦と紐育——シチー——街道——家屋——交通機關——馬車——汽車——電車——倫敦の夕方——氣候……四一——五七  
英國の家庭——言語——食事——ダンス——坐談——服裝——家事——日曜——宗教——娛樂——演劇——寄席——田園生活——公園……五七——七九  
英人の體格及び性質——食物——狩獵——英人と動物——競馬——運動及び遊戯——其再興——其意義——公立學校——紳士——新聞雜誌——運動と宗教——スポーツ——運動場——倫敦の運動場——觀技の意味……八〇——一〇一  
クリケット——遊戯の季節——佛人の評——英人の返答——英佛の運動の性質——フットボール——其種類——其統計——我國に對する希望——ゴルフ——ロンドンテニス——ボツケ——一〇一——一二一

目次



目次

二

ボートレース—最古兩大學競漕の成績—漕手—練習—漕手の撰擇—其他の競漕—ヨットレース 游泳—長距離游泳—女子と游泳—世界的旅行……………

陸上運動—徒歩競争—世界のレコード—世界的運動會—學校の運動會—體育場—體育雜誌—立派なる動物—名士と運動…………… 一三一—一三六

勇氣—冒險—お世辭—笑ひ—信實—受取—仕事—朋友—紹介—頑丈—保存—癖—服裝—家例儀式—蒐集癖—中華—外國語—獨立自尊—自由と階級—暗殺—貴族—富—借金—天然と英人—留學生—廣告—一藝—一籌……………

教育—民間の經營—家庭教育—食堂—永住の意義—ラスキン—學校生活—教育小説—教科書—學校の特色—學校以外の教化…………… 一四三—一六〇

想像と實際—洋眼に映ずる日本人—日本の知識—日本人の評價—小學校—其建築—設備—服裝—試験—成績品の展覽—修學旅行—海軍思想—體操遊戯—體操組合—散步—氷すべり—兵式體操—精勵—玩具—望遠鏡—演劇—お伽芝居—シルレルの「ウイールヘルム、テール」—教育家としての「フラクスマン」—教育小説…………… 一六七—一八七

三、見聞のまゝ……………

一六七—一八七

動物—氷すべり—體育—運動競技—服裝—女子の教化—外國語—文學と教育—婦人の修養と娛樂—翻譯—規律—人材と教育…………… 一八八—一九四

四、獨逸エーナだより……………

一八八—一九四

今日の海外留學—エーナ—古の人物—今の人物—大學—ライオン教授—筆記—ヘルバルト派の留學—チューリゲンと留學事業…………… 一九五—二〇七

大學教育研究所—研究の模様—大學の講義—テオレタクム—練習小學校—フラクタクム—生徒—コンファレンツ—唱歌—ワイナハト—修學旅行—書—く癖—會員—夏期講習會—エーナの學校—圖書館…………… 二〇七—二二四

各國小學校の特色—教育の興味—幼稚園—獨逸の田舎小學校—教員と學級—米國の田舎小學校—小學校の實際の知識—學校の設備—學校衛生—机—膳方—女教員と嫉け—教へ方—教科書—言語—文庫…………… 二二五—二四六

英國の子供—英國の教員—學科—無學者—通學—退學—就學—獨逸の教員—女教員—英國教員の養成—見習教員—男女の教員—米國の教員—學校監督—教員の修養及び會合—俸給—參觀と試験…………… 二四六—二六六

田舎小學校問題—獨逸の田舎小學校—途中—村の有様—小學校參觀—生徒—教場—生徒の仕事—授業—地理—歴史—通學—學校と僧侶—教員—英國の田舎小學校—學校の設備—生徒—教授—教員…………… 二六七—二八四

家庭に寄寓—小學教員—教員の互助—道すがら—參觀—教員の家庭—學校の成立—會の目的—會員—中等教育部—音樂部—支部會—其活動例—機…………… 二八五—二九一

會の成立—會の目的—會員—中等教育部—音樂部—支部會—其活動例—機…………… 二九二—三〇五

會の成立—會の目的—會員—中等教育部—音樂部—支部會—其活動例—機…………… 二九二—三〇五

會の成立—會の目的—會員—中等教育部—音樂部—支部會—其活動例—機…………… 二九二—三〇五

會の成立—會の目的—會員—中等教育部—音樂部—支部會—其活動例—機…………… 二九二—三〇五

會の成立—會の目的—會員—中等教育部—音樂部—支部會—其活動例—機…………… 二九二—三〇五

會の成立—會の目的—會員—中等教育部—音樂部—支部會—其活動例—機…………… 二九二—三〇五

會の成立—會の目的—會員—中等教育部—音樂部—支部會—其活動例—機…………… 二九二—三〇五

會の成立—會の目的—會員—中等教育部—音樂部—支部會—其活動例—機…………… 二九二—三〇五

會の成立—會の目的—會員—中等教育部—音樂部—支部會—其活動例—機…………… 二九二—三〇五

會の成立—會の目的—會員—中等教育部—音樂部—支部會—其活動例—機…………… 二九二—三〇五

會の成立—會の目的—會員—中等教育部—音樂部—支部會—其活動例—機…………… 二九二—三〇五

會の成立—會の目的—會員—中等教育部—音樂部—支部會—其活動例—機…………… 二九二—三〇五



關雜誌—第八回總會—大日本女子教育會

一〇、佛國に於ける驚くべき少年結社……………三〇六—三一〇

F. D. I. C.—結社の目的—制裁—組織—起原—影響

一一、西洋子供の遊び……………三一—三二一

子供の遊び—二種の公園—船遊び—人形芝居—カルセル—其他の遊び

動物園—縁日—曲馬—芝居—玩具—勸工場—子供に関する書物

一二、鶴鳥と子供……………三二二—三二六

子を連れて来る—子供の池—カルスタンスの譚—鶴鳥に関する信仰—アン  
デルゼンの譚

一三、小兒の保護及び救護事業……………三二七—三三六

ライプチヒ託兒所—巴里のクレーシユ—伯林の救兒院—嬰兒の養育—巴里  
の救兒院—棄兒養育院—寄宿舎—ペテルブルグの嬰兒養育院—我國の現状  
と希望

一四、早産兒人工保育器……………三三七—三四五

佛國の人口—リオン氏保育器—保育器の歴史—早産兒の特徴—保育器の構  
造

一五、動物虐待防止事業……………三四六—三五五

其歴史—動物の保護—シヨールペンハウエル—活體解剖—虐待防止の實例

紐育の虐待防止會本部—青年防護同盟—牛馬水飲所—動物の愛護—日本の  
子供—動物に関する教訓書—人間虐待防止

一六、音樂だより……………三五六—三六七

船中の音樂—ネーブルス—タランテラ—ゼノア—獨逸人と音樂—集會—エ  
ーナー—大學—木曜の集會—日本の歌—一國と音樂—音樂の教授—小學校—  
子供と音樂—高等女學校—娘の嗜み

一七、音樂に関する見聞……………三六八—四〇〇

家庭の音樂—日本の家庭—學校の音樂—琴責めの段—學生歌—學生の音樂  
演劇—日本の學生—校歌—教員の音樂—樂器の借用—教員音樂會—ビル  
會—大學の學生と教授—市民の音樂—舞踏—大集會場—公園の奏樂—技術  
家の音樂—世界の音樂家—其精勵—其待遇—リッスト—ベートーベン—音  
樂家の紀念碑—名人の評判—音樂家の素養……………三六八—三八二  
奏樂の模様—奏樂堂—作曲の題目—グランドハウス—ニキツシュ—獨奏—  
音樂の賞玩—音樂隊—奏樂の場所—寺院の音樂—パイプオルガン—辻音樂  
者—音樂の練習—音樂學校—音樂教授所—樂器博物館—音樂文庫—音樂の  
出版物—樂器の製造—マンコ、クラフィア—バイオリンとピアノ—オルガン  
—日本の音樂—隠し藝—日本固有の歌曲—聲の練習—彼我の歌ひ方—講談、  
「話し」—日本音樂の性質—能樂—洋樂の流行—音樂の利益……………三八二—四〇〇

一八、教育博物館に就て……………四〇一—四一八

保存性—教育博物館—名稱—歴史—東京教育博物館—其仕事—其批評と注  
文—參考書—玩具—玩具製造及販賣所—玩具の改良—二種の空屋—圖書館



一九、教育上の注文

學校の博物館—蒐集癖—參考書  
 小學教員組合—教員の養老と生命保險—學校及び地方博物館—小學校の圖書館—新聞雜誌縱覽所—保存癖—スカンセン—學校の裝飾—教へ方—筆記—教授法—繪畫—外國語—手工—學校と生徒の特色—寄宿舎  
 著述—雜誌—位置の利用—役人—洋行者—道樂—其種類—學問上の地方分權—名所—通俗大學—雜誌の轉讀—趣味の教育—餘裕ある教育—民間の事業—大人の國民—運動の獎勵—慈善事業  
 四一九—四四五  
 四一九—四三三  
 四三三—四四五

二〇、北歐視學旅行記

紀行の由來—出發—途中の風景—ハル—出帆—ハイネの「ハルツ旅行」—北海—クリスチア—サンサ—國風の保存—救世軍  
 クリスチア—ニア—男女共學々校—アンデルゼン—學校—體操—時間割—科目—オールス、ボッス—學校—手工スレイド—ネエス—手工の文書—手工の目的—體操—大學—ニールセン—學校—體操組合—體操場—體操—公園の音樂—ホルメン—コレン—觀劇—イブセンとビェルンソン—手工品賣店—クリスチア—ニア—所見—出發—途上及び停車場の様子  
 ストックホルム—瑞典の女學校—大學—女子の職業—女權—市中の見世物—中央體育場—體操の有様—王立圖書館—日本書籍目錄—リンネ—女子高等師範學校—體操—小學校—校舍—浴場—游泳—市の模範小學校—設備—教場—體操—唱歌—體育場の舞踏—高等女學校の體操—兵式體操—獨逸式と瑞典式體操—學者の體育說—日本人と體育  
 四四六—六四六  
 四四六—四五三  
 四五三—四七三  
 四七三—四九七

出發—船中—バルチック海上—フィンランドと其人民—女子教育—ハンク  
 より途上—汽車及び停車場  
 セント、ペーテルスブルグ—市の外形—彼得大帝の像—美術學校—ペーテル  
 ボール—伽藍—彼得大帝の家—エレミター—ジユ—其繪畫—學校參觀の手續—  
 平民劇場—皇立圖書館—歴山三世美術館—イサアク—伽藍—露人の喫茶  
 四九七—五一八

ペテルブルグ—大學—學生—東洋語學科—寄宿舎—動物館—學士會院—露國  
 大學生騷動—虛無主義—露國の政體—科學、教育と政府—大學と政府—大學  
 教授—學生—監視部—處罰—大學生運動—學生組合—學生の嘆願—一八九  
 九年の出來事—學生の宣言—原因取調—結果—兵役—一九〇〇年の出來事  
 —ストライキ—露國の大學生—大學騷動の將來—百姓一揆—五一八—五四五  
 通俗教育—大人讀本—ロシアの小學校—ロシアの中等教育—女子の中等教  
 育—中等學校の發達—女子の高等教育  
 五四五—五六〇  
 ペテルホーフ—ペテルブルグ音樂學校—ナルプスキヤ凱旋門—女子ギムナ  
 ジウム參觀—小學校參觀—宗教—服裝—齒の検査—湯屋—夏の公園—モス  
 コ—凱旋門—アレキサンデル、ネウスキー—寺—雇人の市場—エラギンスキー  
 公園  
 五六〇—五七五  
 女學校參觀—語學—音樂—圖畫—手藝—晝飯—服裝—寢室—嬰兒養育院—  
 私生兒—市の所見—ヘルジングフォース—市の模様—航海—五七五—五九〇  
 再びストックホルムに—武器館—博物館—繪畫室—ノース人の殺人の風習—  
 スカンセン—生物博物館—田舎踊—野芝居—食事—見世物場—バルムグ  
 レン—男女共學々校—學課—試驗—教室—語學と唱歌—佛語の教授—男女共  
 學の利益—カタリナヒッセン—マルメ途上—北歐人の渡米—マルメ  
 五九〇—六〇〇



二 西歐視學旅行記

コーペンハーゲン—チボリ—ザレ女學校—美術館—王城—トルワルドセ  
ン美術館—トルワルドセン—舊彫刻館—ヘフゲン教授—アドレル男女共  
學々校—博物館—新彫刻館—大學—北方の公園—市の所見—キートル途上：  
キール—大學—ドイツセン教授—運河—ホルスタイン—鶴鳥—リュイベッ  
ク—ラーツケラー  
ハンブルグ—宛名帳—美術工藝館—女子職業學校—西洋の煮炊—速記—市  
廳—美術館—體育場—會員—場の構造—運動遊戲—服裝—遊覽馬車—港—  
ブランケネーゼ—デニツセルドルフ—博覽會—美術館—出發—ロンドン歸着  
六二四—六四六  
六四七—八三二  
はしがき—出發—マールブルグ—大學—ギーセン—大學—フランクフル  
ト、アン、マイン—停車場—グーテンベルグ紀念像—オペラ—シヨールペンハウ  
エル—ゲーテの家—リユードスハイム—國民紀念碑—祖國—鼠塔—ライ  
の河岸—ローレライ—コブレンツ—船中—六四七—六六一  
ボン—ベートーベン—ベートーベン—音樂家と辯—アルント—船湯—  
大學—古墓地—シユーマン—ライオン教授—女學校參觀—夏期講習會—パン  
ジオン—力學應用の渡し—ドラツヘンフェルス—辻堂—ケルン—伽藍—美  
術館—六六二—六七六  
ブルクセル—キルム祭—裁判所—美術館—大學—王宮—公園—博物館—古  
生物—ウィールウ—ワートルロー—獅子丘—戰場—巴里途上—六七七—六八六  
巴里—凱旋門—世界博覽會—會場—サンクルーの公園—高等師範—博覽會

教育部—日本部—各國の部—バンセンヌ—グラン、パレ—日本の油繪—日  
本館—漁業及び森林部—巴里館—六八七—七〇二  
グラン、パールバー—オペラ—夜間の廣告—見世物—食事—國民と外國語—  
シヤンドマース—萬國心理學會議—衛生館—萬國會議—武器館—世界一周  
—各國の列品館—社會館—夜會—殖民館—家具館—玩具—七〇三—七二〇  
廢病院—武器館—ナポレオンの墓—コンコードの廣場—パンテオン—ソル  
ボンヌ大學—ノートルダム—屍體展覽場—食物陳列館—トロカデロ—  
七二一—七三七  
ベルサイユ—宮殿—オペラ—鏡の間—女王の室—歷史館—庭園—池—大小  
のトリアノン—球戯場—サン、ゼルマン—女子教育所—風船試乗—光學館—  
蠻人の藝—自動道路—出發—七三七—七五一  
イベルドン—ペスタロツチの學校—氏の意義—瑞西の慈善事業—ラウサン  
ヌ—ジュネーヴ—ルソー—島—噴水—大學—時計學校—リヨン行—リヨン  
—共和國の像—ローマ人の墓—大伽藍—金頭公園—大學—市の概評—レマ  
ン湖航行—シルヨン城—フリブール—寄席—七五一—七七〇  
ベルン—男兒及び女兒の孤兒院—ワーベルン女學校—救育院—熊の穴—ミ  
ユレン—ラウテルブルン—子—ユングフラウ—シヤイデグ—氷河—グリン  
デルワルド—インテルラーゲン—マイリゲン—七七〇—七八八  
ルチエレン—氷河公園—獅子の紀念碑—リギ、クルム—テルの古蹟—アルト  
ドルフ—「テル」の劇—シルレル—チューリヒ—ペスタロツチ—教育博物館—  
慈善事業—音樂堂—女學校—大學—國立博物館—ラインの斷流—シユワ  
ツワルド—七八八—八〇〇  
ストラスブルグ—大學—ゲーテ紀念像—天文時計—在外同胞の誼み—バ  
目次



索引

デン、バーデン—温泉場—呼吸治療所—エヒヨー—讀心術—カールスルーエ  
 —女子ギムナジウム—高等女學校—ヴェルト—スパイエル—伽藍—「橄欖山」  
 —ウォルムス—ルーテル紀念碑—マンハイム……………八〇—八一—五  
 ハイデルベルグ—古城址—大橋—ペルケオ—大學—カルチエル—メンズ—  
 ル—ウユルツブルグ—ジーボルド—男教員養成所—中央學校—浴場—百姓  
 芝居—小市の電車—チユーリンドン—林中失道—キツフホイゼル—大紀念  
 碑—エーナ歸着……………八一—八三—二

目次終

西洋教育事情

文學士 下田次郎著

一 巴里の教育觀

緒言

巴里 歐洲第二の大都會で、三百萬近くの人口を有し、其稠密の度に於ては世界一で、二十萬の外人が絶へず居つて、歐洲に遊ぶ日本人が、話の種に是非寄つて行く佛國の首府巴里とは果して何んなものであるか。此一大怪物の正體を見届けることは、數日の逗留では勿論數年の觀察を積んでも容易ではあるまい。

洋行の御土産話で巴里はエライ所で、流行の源で、豪華の競争場で、ハイカラの本場であるといふことは、我國に知れ渡つて居る。これは事實である。しかし巴里の全體はこれでは悉されぬ。巴里は一方に於てまた貧民の巢窟で、舊弊で、社會黨の本陣で、何んな風をして居ても立つ所である。故に巴里は何んなものであると一

一 巴里の教育觀

一

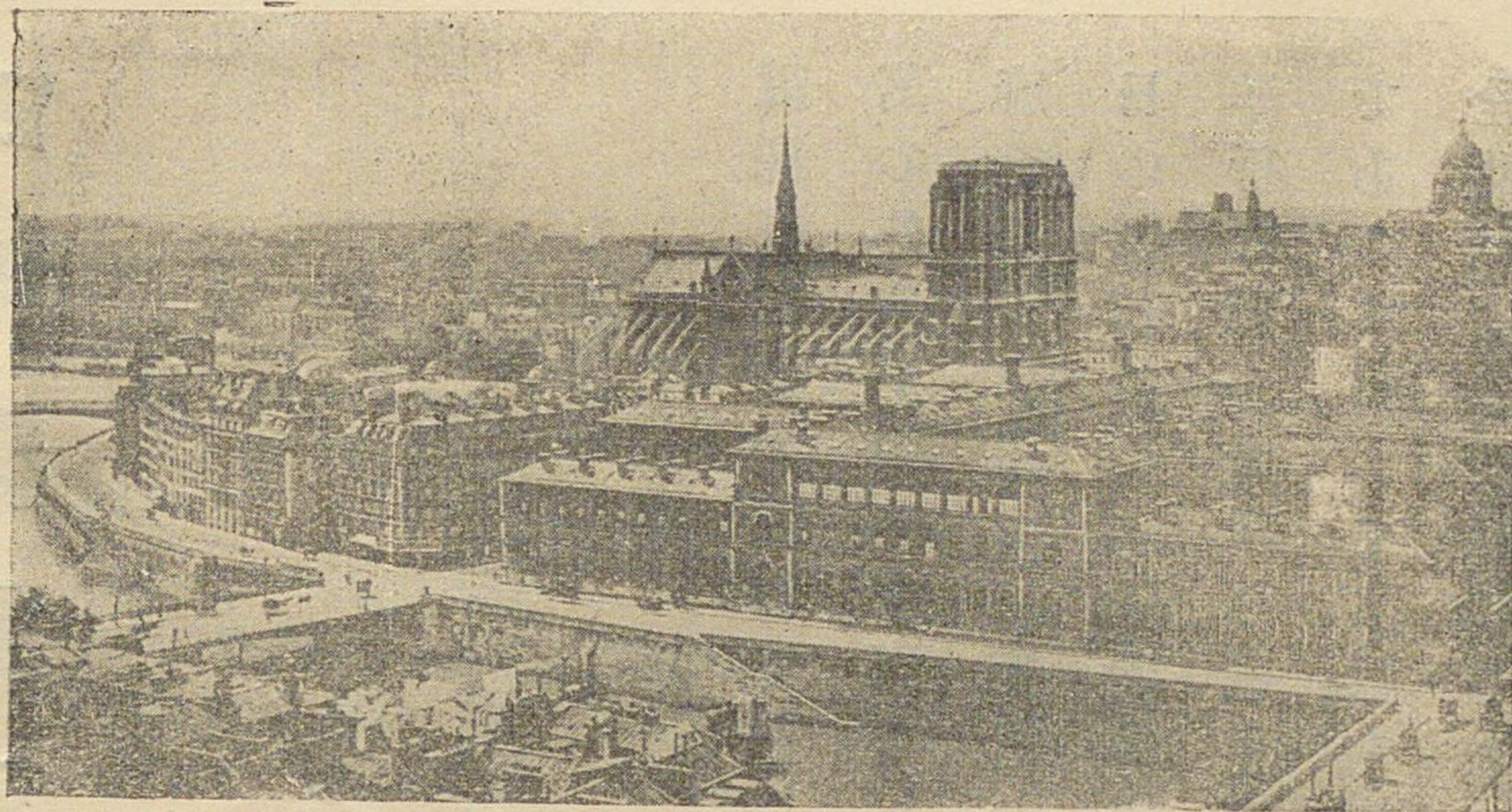


概にはいへぬ。固より自分はこゝに巴里の真相を穿たうとするのではなく、唯昨年七月以來見聞した教育に直接に間接に關係のある

事柄を少しく述るに過ぎぬ。

巴里の外観

巴里は佛國の北方に位し、セーヌ La Seine の流れが其中央を弓狀に横切つて、市を南北に分ち、面積七八〇二、エクタール（一エクタールは凡一町二十五歩、四千餘の道路と八萬三千餘の家屋より成り、空濠付きの堡砦が周圍を保護し、市外に數十の町村が散在して居る。家屋は新舊不揃で、大通りは軒並が揃ひ、二階までは大概店屋であるから、最新の裝飾が施されて立派であるが、三階以上は、一様に黄鼠色に塗られ、極めて平凡で、色の勢か形の工合が弱い感じがする。多數の家は古いのに裝飾したのだから、天井が低く、通例五六階で其上に屋根裏住ひがある。國の權現様の石段も高いが、五六階迄昇る

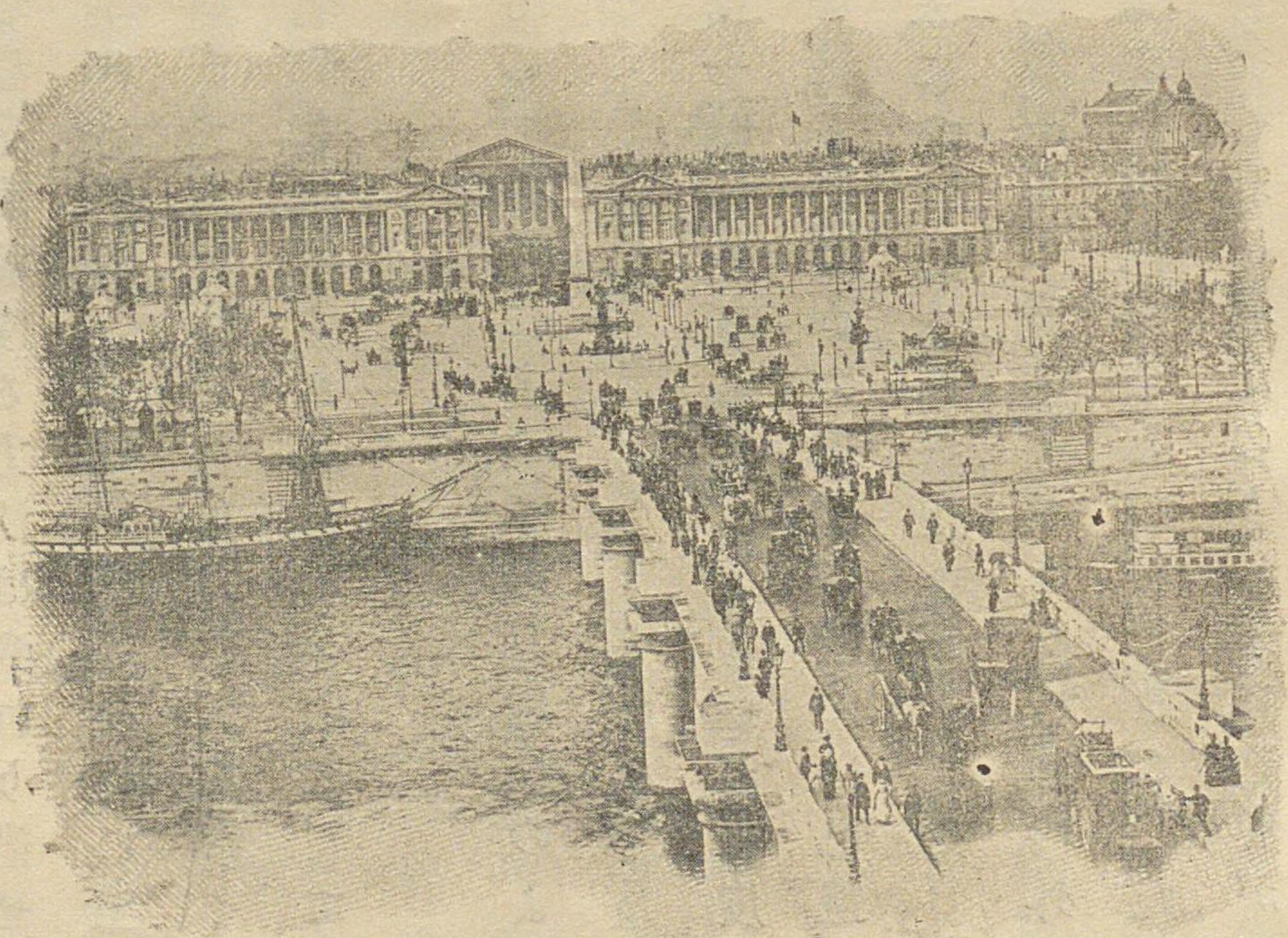


巴里の外観

を形容した婦人像が、周圍に對立して居るが、其中のストラスブルグの像は今日も

尙黒い切の喪章を付け、花輪が堆高く捧げである。（ストラスブルグはアルサス州の首府で、今日は獨逸のものとなつて居る。）

しかし此の敗北が、萬事の刺激となつて、爾來教育に於ても大革新大進歩をなし、教育で誇て居る獨逸人自からも嘆賞し、就て學ぶべきもの多しといふて居る。佛國の敗北は兵士たるものゝ教育が、獨逸の兵士に劣て居たからとこのことで、爾來國民教育には大金を投じ、非常に盡力して居る。殊に地理の教授に重きを置き、小學の高級のもの、割合日本の地理にも委しく本島、四國、九州、北海道、三府を始め、貿易港、氣候、産物、文化の模様など美事に答へる。これは獨逸では嘗て見ぬ事である。佛國の意氣込



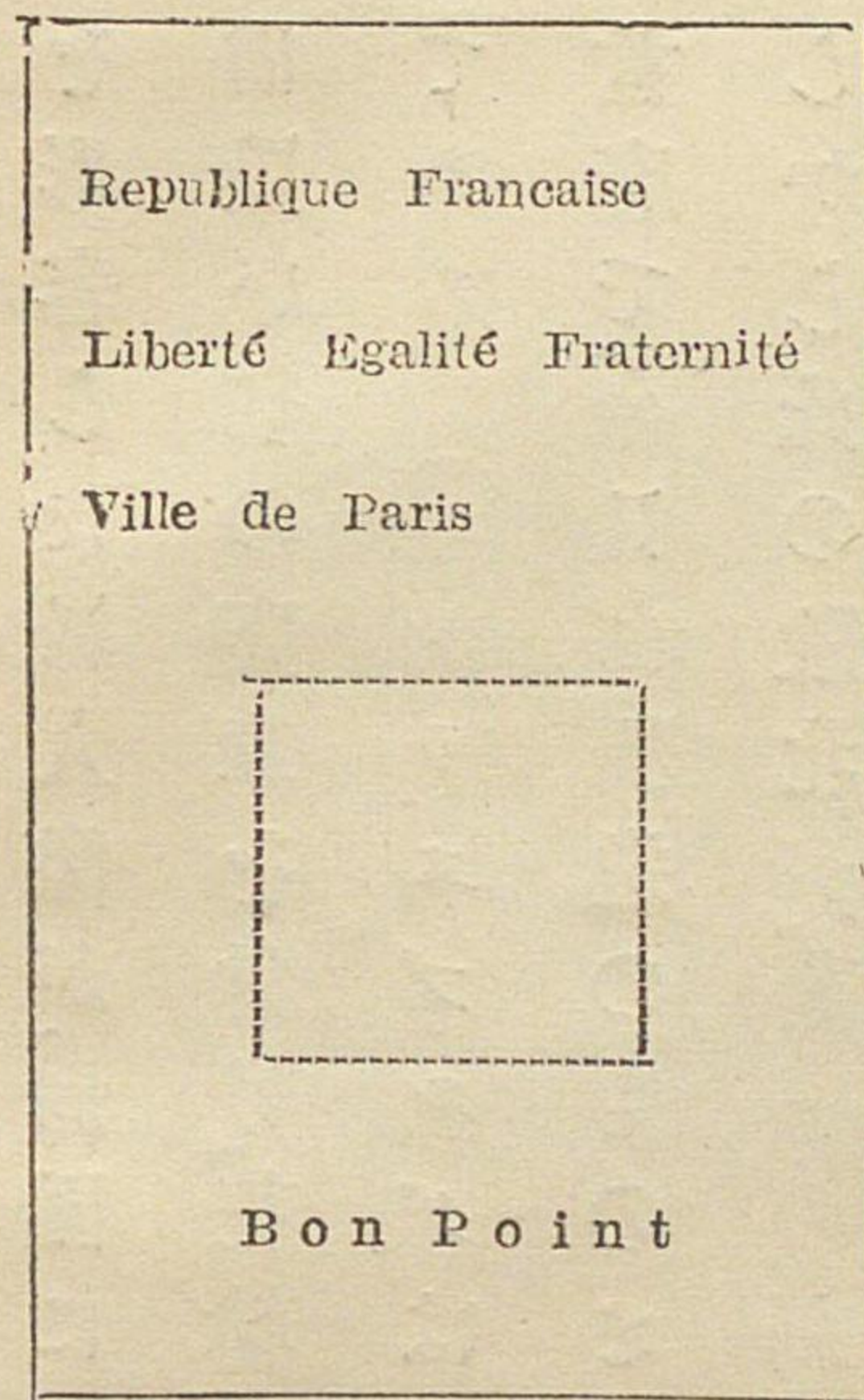
巴里のコンコルドの廣場



は教育事業で分る。

名譽の表  
佛國人は名譽を好むこと非常であるから、名譽を表彰する方法は到れり盡せり、文武の公職にあるものは勿論、教員、文學者、美術家、俳優より幼稚園の生徒に至るまで、それ〴〵名譽表彰の設けがあり、市中を通ると赤い略綬を付けた人を多く見受ける、これは不斷付けて放さぬ。又決闘は名譽を維持する最後の手段として行はれる。

學校では Tableau d'honneur 即ち名譽表なるものが、各級にあつて、毎月出來のよい生徒の名が書こまれる。幼稚園 (école maternelle) のひ、Kindergarten といはず) 及小學の下級の生徒には、返答がよく出來た時、又は一時間、一日の出來のよい時は、度毎に Bon Point (善點) と記した圖 (自然大) の如き札が渡され、圖中の點線の所には巴里の記章あり、週の末に成績のよい者には au mairie (有功と銘された光線放射形の賞牌が渡され、校の内外に於て一週乃至半ヶ月位佩用する事ができる。此點の多寡で月末に名譽表に名がのり、年末に褒美がもらえる。日本でも二十年前小學校で生徒に勤怠簿を



渡して勉善情縦の四點が、生徒の日々の學業品行に依つて帖に捺された事があつた。又男子のリセー及コレージュ(共に大學及び専門の學校の豫備校)では、一八九五年以來毎年獎勵の競争試験があつて、全國で優等なるもの三四人に、大統領の面前で名譽賞なるものを與へる、其儀式は中々盛んなものである。又小學校の教員も、男女どなく、學年末には出來によつて名譽の賞牌、記章を貰ふ。生徒の過半は、褒美の書物を貰ひ、紙製の月桂冠を儀式の場で戴かされる。こんな工合に、上下どなく老幼どなくすべて名譽を好む事が非常で、教育獎勵の方便としても、名譽心が大に利用せられる。これは他國に例のない事で、佛國人の性質には合ふて居るか知らぬが、我國では考へものである。我國でも十數年前までは獎勵試験、優等試験なるものがあつて、お寺の本堂などで、小學生徒の競争試験をして、出來のよいものには小學論語等、後には書籍料として小紙幣の包を下された事があり、又學年試験も平素もよい生徒には半紙鉛筆などを與へられたが、これは孰れも佛國の主義を試みられたのであらう。それから前に出した佛國民の標識で其生命として居る

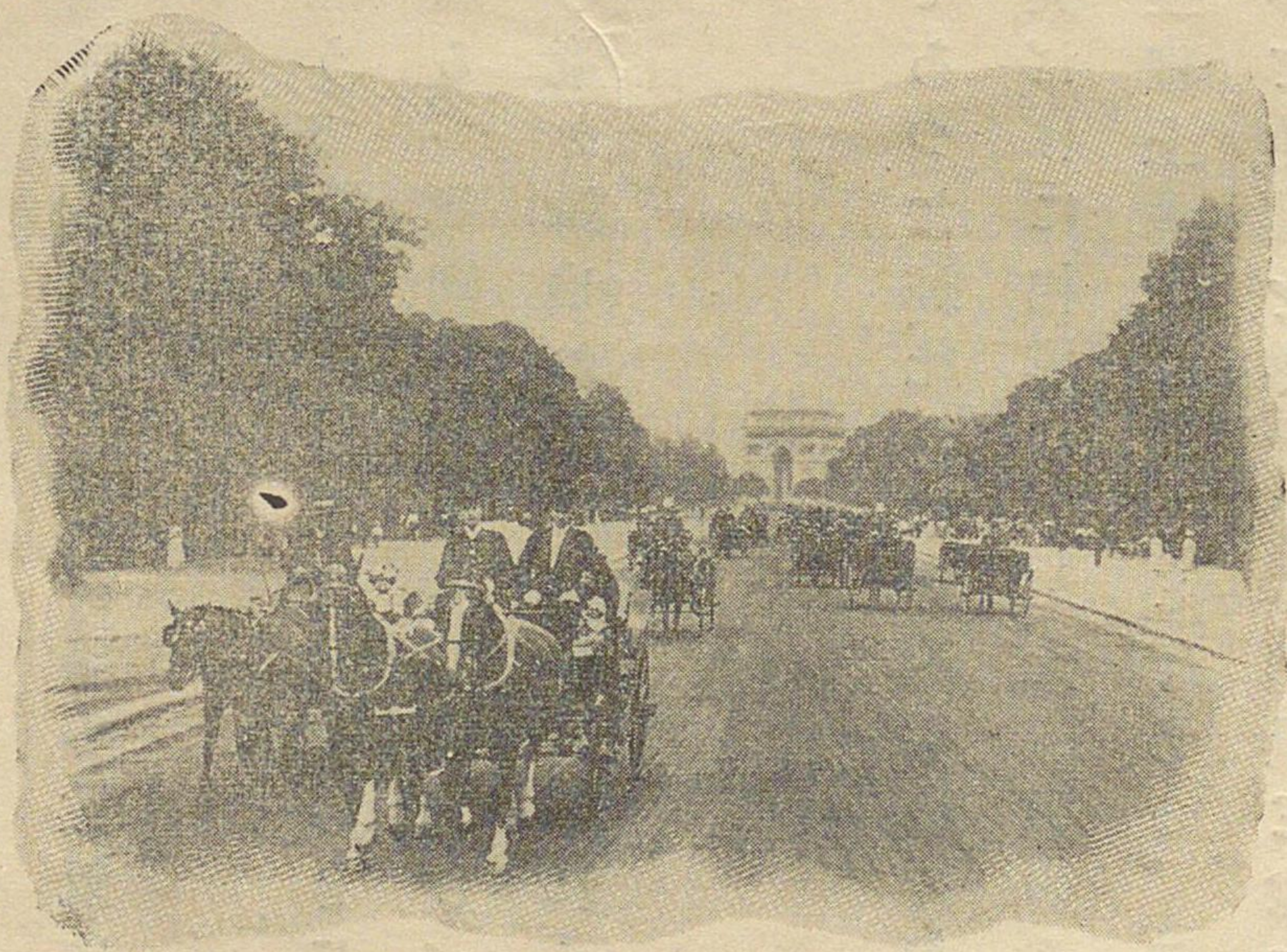
自由



平等友愛の三主義の實際に就て少しく述べよう。この主義は、一七八九年の佛國大革命に由來するもので、字の如く個人は自由で、平等で、兄弟の如く睦く相輔けて生活すべきものであるといふのである。此主義はナポレオンによつて蹂躪されたが、第三の共和政體成るに及んで復舊して今日に及んで居る。佛國人は人道の唱道者であつて、人類の進路を指示するものは佛國人であると誇つて居る。先づ自由で著しいのは辯論出版の自由であらう。何人も自己の思想を自由に吐く事が出来るといふので、共和政體なるに關せず、王黨は國に主領なかるべからずとて、王政復古を主張し、ボナパルト黨は、又帝政主義を唱へ、各々派があつて、出版に演説に、其主義を主張して居る。佛國の貴族は共和政體の今日に在ても、中々保守で共和政を喜ばず、帝政王政の昔にかへる事を希望し、盡力して居る。彼等は彼等同志交通して、餘り平民とは交はらぬとの事である。王政黨の集會に行くと、品のよい服装の立派な人が多い代りに、社會黨の集會は全く反對である。別に怪しくはない。昨年ロシヤの皇帝が、佛國に來遊せられし時は、社會黨は專政國の君主を歓迎するの理由がないと絶叫し、労働者の集會もあつた。佛國では社會主義が盛んで、労働者の味方があるから多數で勢がよい。自然、社會主義及社會的事項の研究は

醜業婦

潜んで居るのではなく、全都に散在して、夜晝の別なく、大道を濶歩して居る。其内外の富豪貴族を相手とするものは、贅澤なもので、シャンゼリゼーの大路、それに續けるブローニュの森に馬車を驅り、男子も同乗を得意とし理想として居る者がある、殊に夜分に至ては、淫風滿都で、何處のカッフェー店でも、レストラン(飲食店料理屋)でも、數十の醜業婦が、客の中に割り込んで、媚を呈し賣らん事を努めて居る。而して人皆其風に慣れ、見て以て怪しとせぬ。彼等は學校のある町をも徘徊し、良家の隣りにも住んで居り、都下の青年子女は日々之が言動を見聞して居る。これが爲めに青年の元氣を腐らし、子女に惡感化を與ふる事幾許ぞ。殊に大學々生以上のものは之れと手を連ね、大道を濶歩して、自ら怪まず、人もまた怪しとせぬ、怪とせざるのみならず寧ろ誇り羨むにあらざるか。學生然り況んや紳士を



巴里ブローニュの森の大道の通り



や。學術の叢淵、巴里の本郷區、カルチエー、ラタンの所謂女學生 *Andriantes* なるものは何ぞ。巴里は他の都會に比べて辻便所が多いが、便所といふ便所は、花柳病治療の廣告で張り詰められて居る、是れ何の象ぞ。嗚呼此の如くして青年の元氣は腐れ、壯年の身體は侵かされて、禍を子孫、國家に遺さずんば幸である。

此現象は獨り巴里に止らず、維納、伯林の如き皆然うである。唯巴里の烈しきに至らぬばかり。しかし早晩こうなる運命を持って居る。我國の如き未だ此悲むべき、國家の爲めに寒心すべき現象を見ぬ内に、豫防の策を講せねばならぬ。これと連關しては

裸體畫

の問題である、昨年我國にも大分論があつた様であつたが、此れは加減ものである。裸體畫を美術的にプラト一流に見れば、無害で美だけに相違ないが、大多數の人は美とのみ見ないで、情慾的に見る。これは先づ生理上免かれぬことである。元來聲の美、羽毛の美、花の美、身體の美は、皆雌雄相呼びて生殖を媒介するの具となつて居る。俗人が裸體畫の美を見て、情慾を動かすのは無理はない。此れ加減問題の起る所以である。歐洲でも多數の人は下品な見方をする。彼等は前項の流儀で、

岡田五兎先生譯	友枝文學士著	西學博士	文義九先生著	蟹江義九先生著	下田次郎先生著	吉田熊次先生著	小林視學官著	山田邦彦氏著	木場法學博士著	吉田熊次先生著	今景彦氏著	文部省編纂	辰巳文學士譯	木村匡氏著	下田次郎先生著
◎ラナハグ	◎倫	◎三訂版	◎再版	◎再版	◎再版	◎再版	◎再版	◎再版	◎再版	◎再版	◎再版	◎再版	◎再版	◎再版	◎再版
教育學通論	倫理學概論	女子研究	女子教育	社會的教育學講義	社會的教育學講義	社會的教育學講義	社會的教育學講義	社會的教育學講義	社會的教育學講義	社會的教育學講義	社會的教育學講義	社會的教育學講義	社會的教育學講義	社會的教育學講義	社會的教育學講義
全一冊	全一冊	全一冊	全一冊	全一冊	全一冊	全一冊	全一冊	全一冊	全一冊	全一冊	全一冊	全一冊	全一冊	全一冊	全一冊
定價金 八拾錢	定價金 七拾錢	定價金 貳圓	定價金 貳圓	定價金 貳圓	定價金 貳圓	定價金 貳圓	定價金 貳圓	定價金 貳圓	定價金 貳圓	定價金 貳圓	定價金 貳圓	定價金 貳圓	定價金 貳圓	定價金 貳圓	定價金 九拾錢



